# 夏に挑む Zoom Up Tome 2017 Special

## 全国高校体育大会 カヌースプリント 200メートル・500メートル 準決勝進出

**佐藤菜央** Sato Nao　登米高２年 南方町大袋

### 「いつでも出し切るだけ」

「まさか、インターハイに出場すると思わなかった」と控えめに話す佐藤。

工藤大将監督は「水をつかむ感覚や持久力など、よい素質の持ち主。まず、今年は秋の新人大会で勝てるように仕上げたい」と考えていた。しかし、県総体決勝で１位の選手に粘り強く食らいつき、ゴール直前で逆転し優勝。「負けたくないと、最後にもう一押しした。インターハイのことは全く頭になかった」と無欲の勝利だった。

インターハイには「持てる力を全て出し切る」を目標に臨んだ。初の全国でも「全く緊張しなかった」と強心臓ぶりを見せ、200、500メートルのいずれも、準決勝に進出した。特に500メートルの予選は、雨で大波が立つ最悪の状況。多くの選手が転覆で失格していた。その中で、バランスを崩しながらも４着でゴール。「あの状況で、バランスを何度も崩しながら、４着に入ったところに伸びしろを感じた」と工藤監督。「練習もレースも出し切るだけです」と、佐藤は自然体でカヌーと向き合う。

## 全国中学校柔道大会 女子個人70キロ超級

**佐々木あすか** 佐沼中 3年

「全中の目標は、昨年果たせなかった初戦突破」。これに向けて、高校生との練習試合や細かい技術などを貪欲に取り組んでいた。その中で見つけたのは「自分の柔道」。取り組むべき道が明確になった。

全中は、１回戦不戦勝、２回戦で佐賀県武雄中の橋口と対戦。過度な緊張はなく体は動いた。得意の大外刈りを仕掛けたところをすかされ、払腰で１本負け。目標には届かなかったが、悔いはなかった。

佐々木は「今後は、希望する高校に進学し、インターハイに出場することが目標。「自分の柔道」でリベンジを果たしたい」と心に誓った。

## 全国中学校ソフトボール大会

**佐沼中男子ソフトボール部**

先輩たちから引き継いだ「全国で１勝」が悲願だった。悲願達成に向けてのチームづくりでは、意見がぶつかった。そのたびに話し合いを重ねて連携を強化してきた。全中行きは、「目標に向けての一歩、まだスタートライン」。

１回戦の相手は、高知県の黒岩・尾川中。試合直後、会場の雰囲気にのまれ、周りの指示が聞こえなかった。上位打線にヒットが出ず、３回ともに３者凡退。守備では、細かなミスが大量失点に結びついた。結果は０対15で負け。それでも、最後まで諦めずに戦い抜いた。悲願は、後輩たちに託された。

## 全国高校総合体育大会 陸上競技 走り幅跳び

**高橋瑞希** 佐沼高３年

目標は「６メートル00を跳び優勝」。高校最後の年、目標達成に向けて走り幅跳びだけではなく、三段跳びにも挑戦。幅跳びの跳躍に生かすためだ。県総体は２冠達成し、好調な滑り出しだった。「好事魔多し」－。本番まで、残り１カ月で膝を負傷。「頭が真っ白。どうしていいか分からなくなった」。痛みが落ち着き、練習を再開したのは本番１週間前。「今できる最善を尽くす」。諦めらめず、くさらずに臨んだが予選敗退。「落ち込んだけど、下を向いていても仕方ない」。９月上旬、吉報が届いた。幅跳びと三段跳びでえひめ国体出場が決まった。「目標達成してきます」。高橋の笑顔を待っている。

## 全国高校総合体育大会 アーチェリー競技

**佐々木瑞生** 登米総合産業高３年

雨風が吹きつける悪条件の中、開かれた県総体。アーチェリー個人戦は、70メートル先の的に144本の矢を射ち、合計点数を競う。風と慣れない足元の感触に苦しみながらも、丁寧に矢を放ち３位に入賞した。インターハイまでは、撮影した動画で射型を何度も確認しながら、フォームを修正した。本番では、弓具トラブルに見舞われる。最後まで諦めず矢を放ったが、決勝ラウンドには進めなかった。今後は、県外の農業大学に進学を希望。「学校と実家を往復しながら、山中や草原などに設置された標的を狙う、フィールドアーチェリーを専門に続けたい」。佐々木の新たな目標に胸が膨らむ。

## 子供自転車全国大会

**北方小自転車クラブ**

「先輩の残した成績を、少しでも越えることが目標だった」と話す４人（写真左から、米倉冬碧（６年）、佐々木歩果（５年）、及川龍樹（６年）、熱海穂尚（６年））。県大会を２連覇し、全国へと駒を進めた。大会は、学科と安全、技能走行の３つで競われたが、結果は40位と振るわなかった。「実技では減点が少なかったけど、学科が難しかった」とキャプテンの及川は振り返る。大会が終わった後も、６年はクラブ活動に参加し、後輩を指導している。来年６年になる佐々木は「後輩たちと一緒に、練習を頑張っていきたい」と、自転車への思いは後輩たちに引き継がれた。

## 第33回 わんぱく相撲全国大会

**佐々木開地** 南方小４年

わんぱく相撲全国大会は力士の聖地、両国国技館で開かれ、全国から130人のちびっ子力士が出場し、佐々木はベスト32に入った。初めての全国大会に「どきどきしたけど、わくわくしていた」と無邪気に笑う。１回戦は、兵庫県の選手と対戦。一回りも大きい相手だが、立ち合いで先手を取り、押し出しで勝利。続く２回戦も、１回戦さながらの動きで寄り切った。３回戦では完全に力負け。佐々木は、12月に開かれる全日本小学生相撲優勝大会への出場も決めている。「スポ少のラグビーの練習と立ち合いの稽古を頑張る」。持ち前のスピードとパワーをさらに磨き上げ、８強入りを目指す。